



令和元年度 事業報告書

学校法人 支倉学園 ファッション文化専門学校 DOREME



目次

I 学校法人支倉学園

i 沿革	2 - 3
ii 設置する学校等の所在地	3
iii 役員の概要	3
iv 評議員の概要	3
v 理事会・評議員会の開催状況	4

II ファッション文化専門学校 DOREME

i 学校の教育目標	5
ii 設置する学科と学生数	6
iii 教育の充実	7 - 8
iv 学生募集	9
v 学生支援	9 - 10
vi 就職支援	10 - 11
vii 教職員の概要	11
viii 施設・設備	12
ix 地域貢献・社会貢献	12

III 財務の概要

12

(別添資料参照)

I 学校法人支倉学園

和装から洋装へと歴史的な転換を果たした先駆者のひとり故杉野芳子先生の教育精神を慕い、昭和15年に初代校長菅野貞子が「宮城ドレスメーカー女学院」（現ファッション文化専門学校 DOREME）の看板を掲げた。当時は和服姿の生徒に正しい洋服の縫製や着こなしを指導するために、洋服の下着作りから始めなくてはならなかった。その後太平洋戦争では材料不足や軍からの圧迫を乗り越え、戦災を受けた焼け跡から初代理事長菅野忠雄と共にミシンを掘り起こして授業を再開した。昭和55年には学校法人の名称も、江戸時代初期に海外に雄飛した支倉常長の壮図にちなみ「学校法人支倉学園」とし、未来にはばたかく人材を育てるような教育を実践してきた。翌年には泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」も開園し、奉仕の心で世の為に喜びを還元しようとする精神の元、支倉学園の発展の礎石をゆるぎなく確立させてきた。さらにファッション業界のニーズを読み取り、平成22年には昭和56年より続いていた「専門学校創表現研究所 est」を統合。洋裁だけにとどまらず、ファッションビジネスやメイクアップ、ジュエリー制作等を通して現在も更なるファッション人の育成に尽力している。

本学園は、自分の目と頭と体と感性を使い、作業、行動を通して、創造し自分で考えることのできる若者を育てることを目標とし、技術だけでない人格教育に力を注いできた。また、昨今の社会情勢を鑑み、教育の底流にある人間教育、思いやりや相手を尊重する気持ちを育てる教育について学園をあげて取り組んでおり、努力・礼節・明朗をモットーに徳育を重視した専門教育と幼児教育を行っている。

i 沿革

年月	概要
昭和15年	仙台市一番町に宮城ドレスメーカー女学院創立
昭和18年	戦時下のため宮城洋裁女学院と改称、芭蕉の辻に校舎移転
昭和20年	仙台空襲で校舎全焼失
昭和21年	仙台市連坊小路に再設立
昭和24年	仙台市常盤丁に校舎設立
昭和26年	私立学校法による「学校法人」に組織変更昇格
昭和44年	仙台市支倉町に宮城ドレメビル完成
昭和51年	専修学校制により宮城ドレスメーカー専門学校と改称
昭和55年	創立40周年を迎え「学校法人支倉学園」と改称
昭和56年	泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」創設 学校教育法第1条校に昇格
昭和57年	仙台市支倉町に「専門学校ファッションビジネスカレッジ」設立
昭和60年	「ファッションビジネスカレッジ」を「創表現専門学校 est」に改称 向陽台高等学校技能連携指定校となる

平成 16 年	校名を「ドレメファッション芸術専門学校」に改称
平成 22 年	「専門学校創表現研究所 est」を統合
平成 26 年	校名を「ファッション芸術専門学校 DOREME」に改称
平成 29 年	校名を「ファッション文化専門学校 DOREME」に改称

ii 設置する学校等の所在地

【法人本部】【ファッション文化専門学校 DOREME】

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町 1 番 33 号

【めるへの森幼稚園】

〒981-3122 仙台市泉区加茂 2 丁目 24 番 2 号

iii 役員概要（令和 2 年 6 月 1 日現在）

【理事】 定員 6 名 現員 6 名

理事長 菅野 敦子（ファッション文化専門学校 DOREME 校長）

理 事 伊勢 千春（めるへの森幼稚園 園長）

理 事 小幡 賢二（有限会社コラボレーション・マル 代表取締役社長）

理 事 菅野 麻那（学校法人支倉学園 法人本部長）

理 事 檀崎 孝志（株式会社エクシード 取締役）

理 事 鈴木 忠泰（医師）

※選任根拠条文・50 音順

【監事】 定員 2 名 現員 2 名

監 事 丹 義秀（遠山青葉印刷株式会社 代表取締役副社長）

監 事 菊地 英子（会社役員）

※選任根拠条文・50 音順

iv 評議員概要

【評議員】 定員 16 名 現員 16 名

菅野 敦子 伊勢 千春 小川 恵美 菅野 一磨 菅野 麻那 西條 綾子

佐竹 恵子 中村 武好 及川 壮也 檀崎 孝志 豊島 文彦 尾崎 行彦

小幡 賢二 鈴木 忠泰 武井 教使 針生 庸一

※選任根拠条文・50 音順

v 理事会・評議員会の開催状況

(1) 令和元年度理事会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席	監事の出欠
第1回	令和元年5月28日 16:00~17:30	6人	0人	0人	2/2
第2回	令和元年10月23日 16:00~17:30	6人	0人	0人	2/2
第3回	令和2年2月25日 16:00~17:30	6人	0人	0人	2/2

(2) 令和元年度評議員会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席	監事の出欠
第1回	令和元年5月28日 15:00~16:00	16人	0人	0人	2/2
第2回	令和元年10月23日 15:00~16:00	16人	0人	0人	2/2
第3回	令和2年2月25日 15:00~16:00	16人	0人	0人	2/2

II ファッション文化専門学校 DOREME

i 学校の教育目標

創立80周年を目の前に、社会と共生する教育機関として、創立者菅野忠雄、貞子の理念を継承し、未来に向けての若者たちの育成、新たなファッション人の育成に更に尽力する。オリジナル性の高い専門教育サービスを提供し、未来を創造する感性・発想力を備えた創造的表現者を育成する。

Dream (夢力)：学生一人ひとりの夢に向かって夢と目標に近づきます。→将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution (革新力)：自己変革、新たな破壊と再構築。自主自立。立ち向かう強さを養い表現の自由を追求します。→自己変革、革新を忘れず、発達の豊かさや表現力に磨きをかけ、常にチャレンジする人

Message (発信力)：若い感性と創造性を「心」と「かたち」で伝え、すべての人たちに幸せになってほしい気持ちを込めて努力します。→世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、明朗活発に率先して行動する人

本校のアドミッションポリシーを再確認し、学生だけでなく職員もが日々成長していける環境作りを徹底する。そして学生達の夢と希望を叶えられるよう、企業と連携し、実践的な教育を実施し、時代が要請する高度な専門性を持った即戦力となる人材を育成する。

【本年度に定めた優先課題】

- ・創立80年を目前に「伝統と革新」を武器に、入学生数の増加を全職員の目標とする。
- ・オープンキャンパスの充実化と魅力ある学校作りのアウトプットに尽力する。各種 SNS やメディアとの連携を深め、学校外への露出を増やして、学生獲得につなげる。
- ・AO 入学制度を開始し、早期の学生獲得、やる気のある学生獲得を実現させる。
- ・服飾、ファッション教育の伝統校としての学科教育内容、企業と連携した各科目における実践的な教育の実施、企業実習、演習、企業の講師による講義など業界で即戦力となる学生を育成する。
- ・ファッション業界に必要とされる基礎的な知識、技術、感性は、もちろんのこと、カリキュラム、企画、生産、販売へと流通業界にも通じるファッションビジネスにも力を入れ、専門的、創造的な職業人と人間教育の場として更に確立する。また、「今、ファッションにできること」をテーマに、地域の産業振興に寄与する。
- ・就職率を向上させるために、1 年次から職業教育を強化し、キャリア開発に力をいれる。
- ・退学者を減少させるべく、手厚い学生サポート体制を敷く。退学を決めてから知るのではなく、不満や不安要素の段階で解決できるよう、ヒアリングと職員間の連携を強化する。
- ・学費納入については昨今の経済状況と東日本大震災の影響により厳しいものがあるが、特待生制度や入学時における授業料の減免制度を周知していきたい。また、従来の学費納入制

度を一人ひとりにあったものにしていくことも必要な要件であると考えている。

- ・職員の職場環境も改善し、必要な部門に手が届くような仕事分配をする。ムリ・ムダ・ムラの3Mを取り除き、古い風習や体制を変革していく。

- ・「菅野貞子」コレクションの発信をし、80年の実績を伝えていく。

ii 設置する学科と学生数

学科	修業 年限	昼夜 別	入学 定員	入学 者数	総 定員	在籍者数		
						計	男	女
デザイン造形学科	2	昼	50	11	100	26	4	22
スタイリスト学科	2	昼	40	5	80	11	1	10
ファッションビジネス学科	2	昼	50	12	100	26	12	14
アーツ&クラフト学科	2	昼	30	3	60	4	4	0
クリエイター学科	1	昼	30	6	30	6	1	5
服飾デザイン学科	2	夜	募集停止中					

※令和元年5月1日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

iii 教育の充実

＜ファッションの専門教育とキャリア教育を融合した教育課程＞

入学 【AO 入学、特待生、ファッション特待生】



1 年次

ファッションの専門知識・技術・感性を徹底的に学ぶ	社会人基礎力・コミュニケーション能力を養う(キャリア教育・行事)
学科別授業	校内企業ガイダンス、特別講義
各種検定、デザイン画、造形デザイン	進級制作発表会



2 年次

アドミッションポリシーの体现: Dream/Revolution/Message を実現させる社会人の育成。学生自らが主体的に考えて行動する。
キャリア教育: 学生 1 人 1 人に合わせたキャリアプランをキャリア教育担当者の面談を基に作成。細やかな支援を実施。
卒業制作: 学内統一テーマ【令和元年度 Shangri-la~桃源郷そのさきへ】を基に各自の作品を計画的に制作、プレゼンテーションスキルや企画書制作スキルも養う。
ファッションショー: せんだいメディアテークにて大規模ファッションショー。学生主体で制作・運営する過程から、主体性を身につける。



卒業 【就職、進学(クリエイター学科)】

【アドミッションポリシー】

Dream (夢力): 将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、

日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution (革新力): 自己変革、革新を忘れず、発達の豊かさや表現力に磨きをかけ、

常にチャレンジする人

Message (発信力): 世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、

明朗活発に率先して行動する人

①教育指針

2020年で創立80周年を迎えるにあたり、本校創設者菅野貞子の生きざまを顧みた。約80点もの菅野貞子コレクションを修復、整理し、公開展示することで、改めて彼女の強いバイタリティーと先見の明を感じることができた。時代が移り変わっても「ものづくり」や「ビジネス」の現場において、「向上心」は大変重要である。知識や技術だけでなく、自らが高みを目指し、それに向かって努力する姿勢を養わねばならないのである。そして菅野貞子は非常に「対人能力」も高かった。コレクションに使用した生地は海外から特別に取り寄せたものだったり、アシスタントスタッフは全国各地集まったりしていた。それはファッション業界で大変重要なことであり、時代が進むにつれコミュニケーション能力と名を変えて、ファッション人の必須スキルとなった。

本校のアドミッションポリシーに掲げる Message は発信力とし、本校で受けた専門教育を世に発信していくことのできる人材を育成したいという思いが込められている。本年度はこの Message を学校目標とし、向上心とコミュニケーション能力を育成する教育プログラムを実施する。その結果として就職率・進学率を判断基準として、充実したキャリア教育に取り組んでいく。

②特色ある教育活動

■東北の縫製業と連携した中長期間インターンシップ

→縫製技術の工業的手法を習得する。

■ショップ実習を兼ねたフリーマーケット実習

→店頭販売に必要な知識や技術のほか、VMD や PR 方法も自力で運営する。

■テレビ局や衣装サロンでの職場実習

→スタイリストに必要な知識や技術のほか、現場に必要な礼節や関わり方を身につける。

■芸術性を高める造形デザイン(デッサン)

→ファッションと芸術は密接に関わっているため、芸術授業を通して美意識を身につける。

■卒業制作ファッションショー ～Shangri-la 桃源郷そのさきへ～

→作品制作では、ファッションの表現力と具現化する制作力を身につける。また、プレゼンテーションスキルや PC スキルも活用し、ビジネスシーンで活用できるようにする。ファッションショー運営では、時間内で仕上げる計画性と観客からどう見えるかの創造力、組織として動く規律性を身につける。

■地域の子どもたちにハロウィン衣装提供

→子ども服のつくり方を学び、多様な縫製技術を身につける。社会奉仕の心も養う。

■学生も教える体験を(プレスクール)

→学校広報の一環として入学希望者を招いて、授業体験をしているが、学生にもアシスタントとして人に教えることの難しさ、喜びを体感させ、モチベーションを向上させる。

iv 学生募集

①AO入学の実施

学生の早期獲得と入学後のミスマッチを防ぐためにAO入学を本年度より採用。本校を専願とし、出願者本人の個性や意欲などの人物像を、本校が求める学生像に照らし合わせて合否を決める。合格後はオープンキャンパスの複数回参加とレポート等の提出、特別授業を通して、入学準備を進める。

→10名の応募があり、全員合格、入学した

②オープンキャンパス

前年度より実施しているプレスクール、春季・夏季に開催しているオープンキャンパスの参加者は例年通りであったが、そこからの歩留まりを上げることが最重要課題。同分野の競合校はより一層募集活動に力を入れることは必然であり、本校も募集活動のより一層の向上が必須である。出願対象者から厳しい目で競合校と比較検討されることを考え、本校の強みの伝え方に工夫が必要である。教務と広報担当者との連携が必要不可欠であり、より一層協力体制を敷ける様、教職員の意識改革に臨む。

③結果と課題

前述した教務と広報担当者の連携はもちろんのこと、体験入学参加者の母数を増やすことは継続した課題であり、メディアとの連携や地道なSNSの更新も重要である。効果的な広報方法を精査し、伸び率が期待できる方法に注力していく。また、高等学校との信頼関係構築は学生募集には欠かせない重要部分である。高等学校に出向いての模擬授業は効果的であり、今後一層力を入れるべき部分である。

v 学生支援

①退学率

学科名	退学者数	理由
デザイン造形学科	5名	精神的疾病、進路変更、卒業単位不足
スタイリスト学科	2名	精神的疾病
ファッションビジネス学科	4名	進路変更、経済的困窮
アーツ&クラフト学科	1名	進路変更
クリエイター学科	1名	経済的困窮

※令和2年5月1日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

②結果と課題

元々高校時から不登校であったり、オープンキャンパス未参加で、学ぶ意識の不明確な学生も多く入学している。本年度は特に精神的疾病を抱えている学生が多く、入学後すぐに不登校というケースが多くみられた。ジェンダーやメンタルヘルス等、配慮の必要な学生は出願段階では分かりかねる悩みを抱える学生の対応を検討せねばならない。高校時に欠席が著しく多い学生や、オープンキャンパス未参加の学生には、入学前面談を実施する予定である。入学後はクラス担当制を実施しているため、細や

かな面談を行い、人間関係問題や本人の悩みの早期発見に努めている。また、宮城県障害者就労支援センターと連携を取り、教職員のメンタルヘルス研修も実施している為、今後も継続して、せっかく夢を持って入学した学生達を精一杯支援していく。

③学生会「ドレメゾン」の充実

学生のみで結成する学生会「ドレメゾン」の活動をより活発にしている。
 新入生歓迎会やお花見、スポーツ大会や花火大会、ハロウィン、ドレスコードデーなど、学生同士の結びつきを強化すべく学校をあげて支援している。

v 就職支援

①就職率

学科名	卒業者	就職者	未決定	進学	就職率
デザイン造形学科	13	10	1	2	100.0%
スタイリスト学科	6	6	0	0	100.0%
ファッションビジネス学科	13	11	2	0	84.6%
アーツ&クラフト学科	1	0	0	1	希望無し
クリエイター学科	5	5	0	0	100%
計	38	32	3	3	96.9%

※就職希望者=就職者+未決定者

※就職率=就職者÷就職希望者

※ファッションデザイン学科の未決定2名は卒業後就職先が決定した

②主な就職先

MARK STYLER(株)、(株)ストライプインターナショナル、(株)ティンパンアレイ、(株)アダストリア、(株)ナイスクラブ、(株)ジャパンイマジネーション、(株)アズノウアズ、アッシュ・ペー・フランス(株)、ファイブスターウェディング仙台衣装サロン、(株)サンエーインターナショナル、(株)ハニーズホールディングス、(株)パル、(株)三松、(株)ストライプインターナショナル、(株)福装 21、(株)m-i-d (有)リボリューション、(株)ツヅキ、(株)ディアハート、(株)レナウン、福島産業(株) 他

③結果と課題

非常に好成績で終わることができた。就職先は全員ファッション・アパレル業界であり、入社前例のない人気企業にも多数入社が決定した。男子学生が多かったが、募集枠が少ない中でそれぞれが真剣に就職先を精査し、男子学生の就職率は100%であった。前年から始めたキャリア教育が功を奏した結果といえる。また、厚生労働省主宰のジョブカードセンターとも連携し、入社後も辞め

ない、キャリア形成を考えたうえで、入社後のマナーやコミュニケーションスキルの構築などの社会人教育にも力を入れた。今後も継続して95%以上を保てるよう、丁寧な指導に努めていく。

viii 教職員の概要

①教職員数

	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
校長		1		
教員	1	6		
講師		2	3	10
計	1	9	3	10
助手		1		
事務職員		3		
その他職員	1			
計	1	4		
総合計	2	13	3	10

※令和元年5月1日の教職員数を記載している

※教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定している

②教職員研修

【ファッション業界研修】

令和元年 6月 東京研修（百貨店、専門学校、セミナー等の参加）

令和元年 8月 米沢研修（繊維・縫製・染色工場、試験場見学）

令和元年 9月 特別講義（繊維工場技術者によるニット講座）

【指導方法向上研修】

令和2年 3月 宮城県障害者就労支援センター主催メンタルヘルス勉強会開催

【キャリア指導向上研修】

令和元年 12月 レゴシリアスプレイ（認知行動療法勉強会）

令和元年 1月 租税講習

ix 施設・設備

①大規模修繕・購入を行った施設・設備

経費節約を優先し、令和元年度に購入した高額なものは特になし。
学生用 PC が老朽化しており、来年度以降計画的な入れ替えが必要。

x 地域貢献・社会貢献

地域貢献として障害者就労支援センターとの連携（障害者雇用の検討）や、地域行事（とっておきの音楽祭）などへの積極参加を行っている。また、各種団体からの協力依頼に対し、学校の特性を活かした協力を行っている。

III 財務の概要

別添資料のとおり